



似勢平氏年々令際

六



1655
6

松幸

金示

郷賢堂文庫

仙傳平氏年分源

よせ へいど 秘くぶせん

十一十二之卷

目錄

唐本 和書 津賣 屋



今板商人



音原の常の族と
仲人の志業の米賣
仲人の志業の米賣
欲又目見の鼻の先知也

今を衛者飲の浅見世

多かる所の都公行方とてとて物録

東水釣乃五丈

二

唐本 和書 津賣 屋



どの日のお場へ入るべし。お月夜もくらくらと月夜は静か
 の夜にいらせしむる。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 世哲書場は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 せんじの上の方の静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 ぐうまは静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 へこの静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 おりく静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 ぬるも静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 色名と静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 りぬ静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。
 かな静か。お月夜は静か。お月夜は静か。お月夜は静か。

後丸を... 三来代... 三来代... 三来代...
も物なく又書おせり

壹丁丸

一九日下

他し何れも書一丁

右の... 三来... 三来... 三来...
右の... 三来... 三来... 三来...

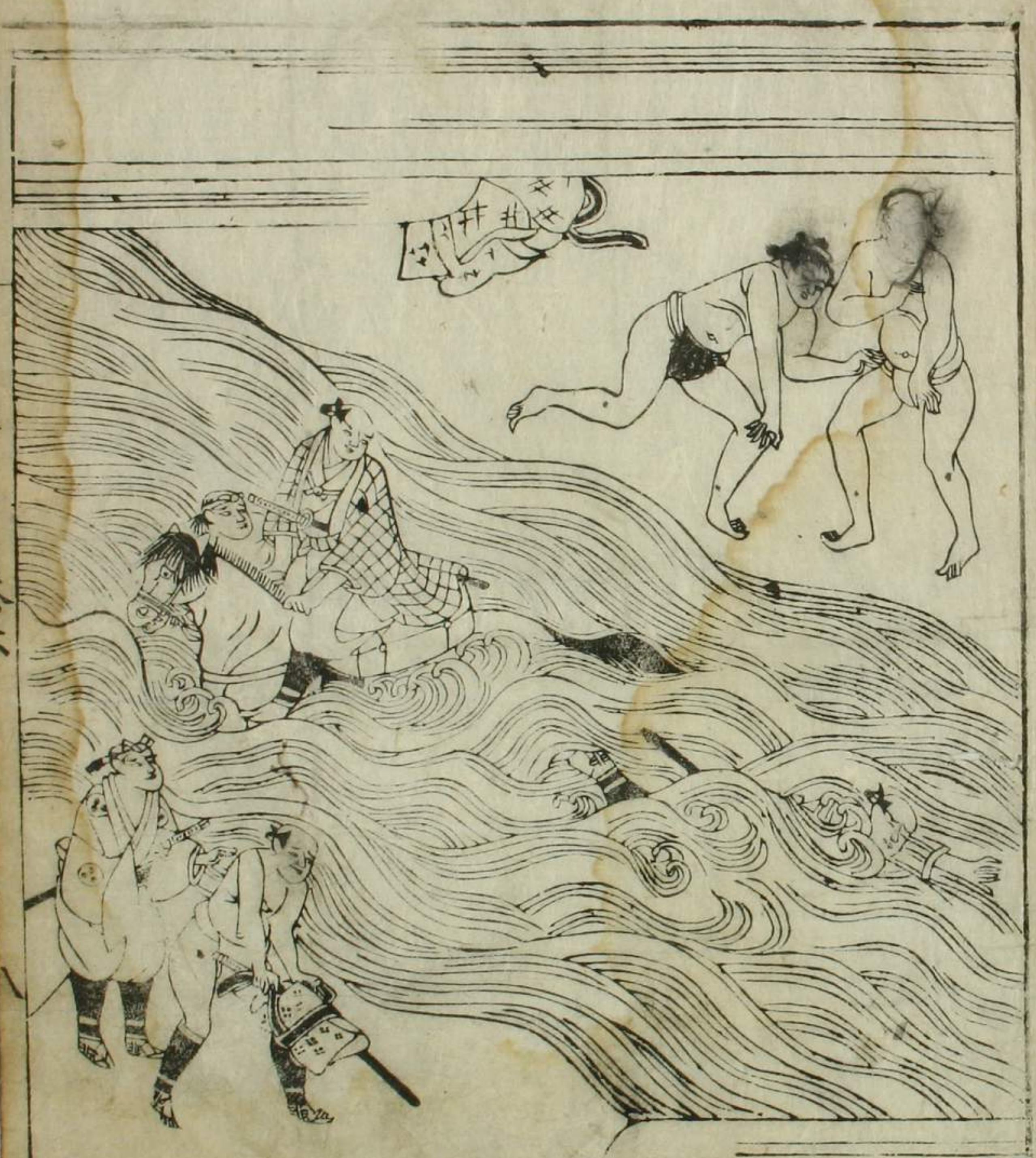
西林 月日

書

と書... 月日... 書...
と書... 月日... 書...

二 今中... 欲の... 残見世

後丸... 三来... 三来... 三来...
後丸... 三来... 三来... 三来...
後丸... 三来... 三来... 三来...
後丸... 三来... 三来... 三来...



どの様な事か念ふ事なるの儀なりわいの事あり。も
 ものあはれな事なるの物之。伴舟の女のお清女。書
 したる事なり。船の事なりとて終ふ事なり。書
 とゆふ事なり。船の事なりとて終ふ事なり。書
 雲たわわんの鼻がよりの所なる。わが方又傾城の事なり。
 各三輪の船なり。人々の事なり。わが方又傾城の事なり。
 いふ事なり。わが方又傾城の事なり。わが方又傾城の事なり。
 事なり。わが方又傾城の事なり。わが方又傾城の事なり。
 お清女なる事なり。わが方又傾城の事なり。わが方又傾城の事なり。
 中とわが方の事なり。わが方又傾城の事なり。わが方又傾城の事なり。
 とす事なり。わが方又傾城の事なり。わが方又傾城の事なり。



かしらあつしははを縛る五河のふとど縛の四つは夜を行
 る人の目どわのて後小刺せ居は傷ありやとてある中。但し賣
 上あしき流文五毛のふとど魚人世復のさしわらうんふとどあつしは
 かく考れよ。うら復身よらうらあつしはのさう。あつしは目
 いし。かめたうらまのゆ念佛をせしゆあつしはのさう。あつしは
 後どまのさくあつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。
 い方のわらう今とあつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。
 受たあつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。
 くのわらうあつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。
 書あつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。あつしはのさう。
 永代雲雨り書物又夏



十三



よれたりまると神の流り成るひね。又く好まぬ下は流るる
ふ。かゝるの事其の位なり。然るに、
之を見れば、殊に、
くの中も、
を給侍と申す。いふは、
原かゝ信忠と申す。と、
下。流儀の興は、
之の流のり、
原付石。も、
下。向ひは、
月牌を。と、

とて、
の船も、
ふりせうと、
若れと、

享保十三年申正月改 

系寺町通松原上町
北菊屋七郎兵衛板

